

2021年度電子情報通信学会 フェロー称号受贈

ドコモ・テクノロジーの奥村 幸彦は、2022年3月17日に開催された電子情報通信学会のフェロー贈呈式において同学会よりフェローの称号を贈呈されました。本称号は学問・技術または関連する事業に関して顕著な貢献が認められ、電子情報通信学会への貢献が大きいシニア会員に対して贈呈されるものです。2021年度は26名がフェローの称号を贈呈されました。

本贈呈は、「第5世代移動通信システムの研究開発と実用化」の貢献が認められたものです。奥村は、高速・大容量、高信頼・低遅延、多数端末接続などの特長をもつ第5世代移動通信システム（5G）の実現に向けた取組みを、2010年より約10年にわたり技術開発リーダーとしてドコモ社内および30を超す社外関係機関を牽引・主導する形で推進し、一連の5Gの研究開発と実用化に貢献しました。

具体的には、5Gの高速・大容量化に向け、逼迫状態の3G/4G用既存周波数帯に対して、より高い周波数帯を5G用に開拓し、既存周波数帯と高周波数帯を組合せ導入可能な無線アクセスシステムを提唱しました。同時に、従来詳細に検討されていなかった高周波数帯の移動電波伝搬特性について実環境測定を行い、基礎的モデルから実践的推定法に至る諸技術を確認しました。また、5Gの要求条件を満たす無線アクセスシステムの実現に向け、総務省の5G研究開発プロジェクトで、理論検討、シミュレーション、実機検証を通して標準化と実用化に資する多数の新技術構築を推進しました。

一方、新たな5G応用サービスの創出に向け、総務省5G総合実証試験に参画し、自治体、企業、大学などのパートナーと協力して社会課題解決や地方創生などにも寄与する多様なユースケースの実証試験を行い、5Gの高い性能が新サービスにおいて有効であることを確認しながら実証を進めました。特に、医療分野への5G応用検討と実証を、同分野において喫緊の課題となっている医療体制の充実・均てん化や感染症対策に寄与すべく重点推進しました。さらに、企業・団体・大学・自治体が参加して5Gの立上げ・普及を促進する第5世代モバイル推進フォーラム（5GMF：The Fifth Generation Mobile Communications Promotion Forum）において、5G実証試験推進グループのリーダーを務め、実証試験の推進支援と実証結果 [1] の国内外でのアピールにより、5Gの早期実用化と応用促進への機運を高めることに貢献しました。

これらの5Gの実現に向けた取組みを通じて、移動通信、電子情報通信の各分野の発展へ大きく貢献したことが、今回の贈呈に繋がりました。

文 献

- [1] “General Report on 5G System Trials in Japan from 2017 to 2020,” 5GMF, Mar. 2021.
https://5gmf.jp/wp/wp-content/uploads/2021/07/5G-TPG_General_Report_2020_R2.pdf

本誌に掲載されている社名、製品およびソフトウェア、サービスなどの名称は、各社の商標または登録商標。



オンライン贈呈式模様

